

会 議 録

会 議 の 名 称	新座市公共施設再配置計画策定に向けた市民説明会（第2回）
開 催 日 時	令和8年4月21日(火) 午後3時から 午後5時15分まで
開 催 場 所	栗原公民館1階 軽体育室兼会議室
事 務 局 職 員	総合政策部長 伊藤 総合政策部参事兼公共施設マネジメント課長 加藤 公共施設マネジメント課副課長 柴沼 公共施設マネジメント課公共施設マネジメント係長 増田 公共施設マネジメント課主査 照井 公共施設マネジメント課主任 田島 教育総務部長 齋藤 教育総務部副部長兼教育総務課長 森山 教育総務課小・中学校適正配置等推進室長 五十嵐 教育総務課小・中学校適正配置等推進室専門員 狩野 学校教育部長 丹代 学校教育部副部長兼教育支援課長 山崎 学校教育部参事兼学務課長 大内
説 明 会 内 容	1 開会 2 総合政策部長挨拶 3 計画素案についての説明 4 質疑応答 5 閉会
説 明 会 資 料	1 次第 2 資料1 3 資料2 4 資料3 5 アンケート調査票
参 加 人 数	80人

説 明 会 の 内 容

- 1 開会
午後3時00分開会
- 2 総合政策部長挨拶
- 3 計画素案についての説明
 - ア 公共施設マネジメント課職員説明
配布した資料1・2に基づき、公共施設マネジメント課から説明した。
 - イ 教育総務課職員説明
配布した資料3に基づき、教育総務課から説明した。
- 4 質疑応答（・は市民の発言(カッコ内は居住地域)、→は職員の発言を示す。）
 - (司会) 次第4の質疑応答に移る。本日はできるだけ多くの皆様からご意見ご質問を賜りたいと考えている。たくさんいらっしゃれば一人一問ずつとしたいが現時点で質問がある方は挙手をお願いしたい。
 - ・(野寺四丁目) 計画そのものをどう進めていくか聞きたい。最後の説明では8月いっぱい最終案を決めるということだったが、策定まであまりにも短いのではないか。

今回の説明会自体の案内が少なく、広報紙に簡単に載っているだけだった。ホームページには掲載されていたが市民はどこまで知っているのか。広報紙の記事も簡単で、計画の内容までは分からない。市民同士でこういうことがあるよと伝えながら説明会に臨んでいる。このような状況下でパブリック・コメントを実施しても意見は限られてしまう。

どんな施設でも一人一人一つ一つ、切実な要求を持っているのでそういう所を踏まえて進めてもらいたい。計画策定まであまりにも短いので今後のスケジュールについてもう一回説明してほしい。
 - 今後の進め方について、パブリック・コメントはご説明したとおり8月実施を予定している。その前の段階として今回の説明会を4回実施した後、5月10日まで意見募集をし、計画案の修正が必要かどうかを内部で検討する。おおむね7月頃に再配置計画の審議会を実施し、最終案を含めた計画を議論いただく予定。8月以降にパブリック・コメントを1か月間実施することを考えている。
 - 今後の予定は只今説明したとおりであるが、中身の議論についてはこういう場を設けて市民の方からご意見をいただいている。進め方についての意見をいただければ、進め方も含めて全体的に議論をしていく。
 - ・(栗原一丁目) 小学校の再配置は仕方ないと考えている。今まで通っていたところが無くなるのは寂しいが、選択と集中で今後子どもたちにより投資していくのは賛成の立場である。小学校はこれから通う子どもたちのところなので選択と集中があってもいいと思う。

集会所は栗原第一集会所が廃止の対象となっている。確かに集会所は古い、廃止となるのは困る。その理由として、私は町内会の活動をしてい

るが、地域活動をするのには拠点が必要で、その役割を集会所が担っていると感じている。防災の拠点という観点もあり、集会所には防災関係の物資も置いてある。もし栗原一丁目の集会所を廃止しても、会議をするなら近くにある他の施設に行けばいいじゃないかという考えなのかもしれないが、これからもっと少子高齢化が進み高齢者が増えていくので、近くにあるとはいえ、他の施設が近くにあるとしても行くことが大変になる。地域の拠点である集会所は残してほしい。無くなってしまうと、お祭り等で地域を盛り上げようとしている私からしても、もしかしたら活動できなくなってしまうのではないかと思う。町内会を維持するという目的から集会所は維持してほしい。

平屋の狭い集会所を建て替えるのに何百万かかるかわからないが、そこを建て替えるだけで今後何年と続く町内会活動が維持できることを考えたら安いのではないか。気持ちの問題だけではなく費用対効果を考えても維持した方がいいと考える。

→ このような形の説明会を既に1回実施した。実際に使っている皆さんからの存続の要望が数多く寄せられている。最終的な計画決定に向けた参考としていきたい。

施設のコスト面でお話があったが、集会所の実例として、直近で建てた集会所のコストとしては一棟当たり約8000万円であった。造りも現在の栗原第一集会所とは全然違う。かなり立派で機能も備わっている。参考までにお伝えする。

・ 立派なものは不要である。10畳と5畳の和室があればいい。

・ 日本は地震列島、埼玉に海は無いが防災という意味ではどのくらい注意深くこの計画を立てたのか非常に心配である。学校には給食室や体育館がある。いざというときには学校の給食室が拠点になり、体育館も拠点になる。その拠点になる学校が少なくなる。集会所もそうである。

それから、この市民説明会を含めた素案はどこかのコンサルタント会社に依頼し、市がお金を出して作ったものなのか。

→ 計画書に関しては専門的な業者の支援を得ながら策定をしている。当然、全て業者にお願いするのではなく議論の中には市の職員の意見も踏まえて進めている。補助的な立ち位置としてコンサルを活用している。

→ 学校についての質問があったので回答する。先程説明した案は、教育委員会の職員で、子どもたちの少子化という問題と老朽化の2つの側面について検討したものである。只今のご意見にもあったが、防災面等色々な面で学校の施設の役割があると思うので、今後設置する審議会を通じて詳細に考えて、基本方針というものをこれから定めようとしている。

・ (栗原) 市民の声を聞いたというアンケートについて意見を述べたい。私はコンサルではないが職業としてアンケート調査を40年間やってきた。職業倫理としてアンケートは公正なものをやると心掛けてきたつもりである。

今回のアンケートを見て、これはコンサルの方が入っているというが、基本的な統計学や基本的な社会調査の知識を持ってやっているとしたら一体どういう意図があったのか。調査というのは正確にもできるがわざとゆがめることもできる。

第一に、資料1の18ページに記されているが、3000人を対象に市民調査したというが、回答者が1000人を切っている。回答者が少なく、3分の1しか回答していない。しかも、回答者の比率が出ているが、60歳以上の割合は26%で、実際には新座市の60歳以上の方は37%いることを考えると、高齢者の回答数が少ない。

なぜそうなるか、推測だが一つはこの調査票は結構長いと考えられる。高齢者に届けても書きづらい。それからWeb調査も入っているから若い人は回答できる。それだと回答数が少なかったと十分言える。実際の高齢者の意見が反映されていない。施設の利用状況について満足ですかと聞いているが、公民館は比較的利用数は多いけれども、老人福祉センター等の高齢者施設は利用者が少ないので、20人程度の方に聞いて満足度を分析しても意味が無い。

また、調査票を配るだけではなく今日の説明資料の要約みたいなものを一緒に配っているということは、誘導しているという見方もできる。公正な調査の実施という観点から、資料を付けるのが良いのかどうか。

もう一つ、利用するしないの回答は簡単だが、今後どうすべきかということについて8つの項目から選ぶが、選択肢の中から2つだけ選んでくださいとなっている。3つ以上は選べない、上から順番に2つ選んだらあとは選べない。しかも挙げてある項目は減らす対策になっている。最後に他から持ってこいという選択があるが、そこに行かない場合は数が終わっちゃうという作りになっていて、調査票の作り方に関わり疑問がある。

今から調査をやれとは言わないが、だからこそ市民の声を引き続きしっかり持って市民と一緒に考えていく。そういう改革にしてもらいたい。

決して否定してばかりではないと思う。老人福祉施設を持ってくるのは悪くないかと思うが、そういうことを含めて色々な市民の声を聞いてやってもらいたい。

- ・(栗原三丁目) 栗原公民館と中央公民館を八石小の跡地に持って行くとのことだが、栗原公民館にある機能を全て八石小に持って行くというイメージをすればよいのか。新座市役所まで行くのはかなり不便だ。出張所も含めて八石小に持って行くという考えなのか。できればひばりヶ丘駅の方に市の公の施設、図書室などが欲しい。公民館の位置が駅からさらに離れたところになってしまうこともあり、この計画案には賛成したくない。
- 現在は素案の段階であり方向性の議論をしている。個別施設の中身については事業が実現する段階での形になる。一つは、こちらの公民館を出張所併設型とする考えもあるのでそういった視点も加味する。プラスアルファでの機能拡充についてのご意見ご要望も多く寄せられるのでそういったことも含めて議論を重ねていきたいと考えている。

- ・(栗原一丁目) 冒頭にハコモノの改革という言葉が出てきた。ハコモノのあと教育委員会から説明があった。これはどういう法令・根拠によるものかと考えているところである。

学校については教育委員会に属するものだと思っている。公民館は市のものだと思ったが、中身についての資料等内容等についても市だと思う。ところが集会所の中身の問題はどこがやっているのか。市ではない。運営委託を町内会が受けている。運営委託を受けて判をついているが、この計

画について一言も話がなかった。相談もなかった。意見はたくさんある。そこから出発してほしい。

それから、集会所を無くしても他の施設で代替ができると上から述べられた。思わず笑ってしまった。代わりはできない。絶対にできない。担当者に聞くが、公園清掃の協定をみどりと公園課と結んでいる。これはどうしたらいいか。危機管理自主防災会の倉庫がある。先程公園清掃の機械類、町会が買って市の委託を受けて町会が実施している。止めていいのか。市からの掲示物がたくさん来る。全部きれいに貼っている。掲示板も新設した。市からの補助もいくらかは貰ったが、町内会でやっている。これらを全部止めることになる。代替はできない。

こういった町内会の活動は、町をしっかりと作っていきたい、住みよいまちづくりを目指していききたいという思いでやっており、市に報告している。報告書は読んだか。一つは助成金。教育委員会から貰っている。今年からゼロになるそう。その度に何ページにもわたる報告書を提出している。生涯学習スポーツ課に行けばその資料は全部揃っている。それを見ればどういう活動をしてきたか、集会所にどれくらい集まってきたか、年間どれくらい集会所を使って会議をしているのか全部一覧になっている。そういうことを確認して、私たちともまず中身のことを検討して、そこから出発してハコモノを考えていただきたい。

本当に侮辱された感じでいたたまれない。学校は教育委員会が中身を考えて今後変えていく。公民館もそう。集会所の中身、使っているのは私たちだ。私たちがまちづくりをしている。市ではない。これは明言する。そのことを踏まえてハコモノを検討していただきたい。大変怒っている。

- ・（栗原一丁目） 説明を聞いたが、新座市公共施設再配置計画が実行に移された場合、市民にどれだけ影響があるか検討しているのか。なぜそういうことを言わざるを得ないかと言うと、この説明会を実施しているのは4か所に過ぎない。これで全市民に伝わっているのかと、率直に聞きたい。

学校の問題では小中一貫校のことが触れられているが、現に小中一貫校に携わっている関係者から聞き取りをしてその効果についても分析しているのか。

説明者の説明では少子高齢化という言葉を使っていたが、少子化と高齢化は相反する現象である。高齢化が進んで長生きするのは良いことである。ただ、少子化は日本の将来に重大な影響を与える。これをなぜ少子高齢化という言葉を使って、一つにして説明するのか。私は高齢者だが、高齢者だから反発するわけではない。今、市が本気でやらなきゃいけないのは少子化対策をどうするのか、新座の将来をどうするのかということである。こういう積極的な市政を進めることが一番大事だ。少子化だけを問題にして学校を統合させるとか、若い人が少ないから公共施設は作らないとかこんなことは当たり前である。現在働いている人は昼から夜まで働いているのだから公共施設を使うチャンスが無い。

きつい言い方だが、市が提案していることはお金の問題だけにしか光を当てていないので、こういう考え方を改めてほしい。この先、もう説明会はおそらく無いでしょう。これで市民の皆さんから意見を聞いたとアリバイ作りにされては困る。このことを検討してほしい。大きな問題をわずか

2時間の説明会で済まされては、たまったものではない。

不満分子の意見として受け止めないで、市全体として率直に検討していただきたい。

もし本当に再配置計画を実行するのであれば2年後の市長選挙で訴えればいい。8月に決めることはない。

→ ご指摘があったように、説明会の回数や市民への周知のやり方については色々な面でご意見をいただいている。こちらの計画はかなり心苦しい中身にはなっているが避けては通れない部分もあるので、議論をさせていただきたい。市長からも市民の皆様、特に利用者の皆様の声を丁寧に聞き、反映できるものは反映していこうという指示を受けている。この場でどうこうするという判断にはならないが、進め方についてはいただいたご意見を踏まえながら検討していきたい。

→ 小中一貫校についてご質問をいただいた。

まず、関係者から聞き取っているのかということだが、関係者レベル、教育長レベルで情報収集を行っている。

小中一貫と言われるようになったのは平成25年頃だが、中1ギャップや不登校などの色々な問題が出てきたときにどのように学校教育を変えていけるのかということに関連して出てきている言葉であると考えている。

新座市では元々小・中学校の連携を行っていて、小学校と中学校がお互いの授業を観に行く、指導をすり合わせるなどの取組を行ってきている。ただ、これまで生まれた指導体系が現状に合うのかどうかということを考えたときには、小中一貫という考えで、もっと小学校と中学校が一体となって教育を進めていくことができるのではと感じている。

平成25年頃から新座市としては、コミュニティ・スクールに取り組んでいる。同年には野火止小学校に学校運営協議会を設置し、現在では市内全校に学校運営協議会を設置している。小中連携を超えて教育課程を編成していこうとしたときに、小学校と中学校がただ乗り入れて単発に交流するだけではなくて、教育課程を地域としてどう捉えていくかという考え方で一生懸命研究しているところである。コミュニティ・スクールで地域の方の力をお借りし、地域の学習材料を使いながら、教育課程を編成し、取り組んでいるところである。

小中一貫という言葉だけが先歩きされると非常に困るが、現在、学習指導要領が新しく変わろうとしているところであり、昔のように指導することがあってそれを教えてもらうことよりも、子どもたちが学びたいと思ったことをさせてあげられるような環境、自分で学習してみたい、調べてみたいと思うことを学校、地域、家庭が一緒になって編成していけるような柔軟な教育課程が求められている。教育委員会としては、この機会に小中一貫ということを確実にしていくような取り組みをしなければいけないが、新座中学校区から第六中学校区まで、その地域によって取り組んでいることが違うことも踏まえ、全体としてある程度の方向性は作るが、その中学校区が独自に状況を改善できるような教育環境を作ろうと考えている。

- ・ 素朴な質問。これまで新座市では町内会を主体とした活動を市で推奨してきたと思うが、集会所が無くなることで今まで以上に町内会活動や市民

がよい環境になるという前提があるのか。

→ 新座市はこれまで市民の皆さんに支えられながら市政をしてきたと自認している。特に町内会の皆様には市政の一翼を担っていただいてご活躍されてきたことは先程の公園清掃の話もあったが十分に認識している。

ただ、先程来申し上げたとおり、施設については老朽化が進行している。同数で維持存続できれば当然我々もそうしたいが、施設維持に回せるお金が今後どうなっていくのか不透明な状況であり、施設をある意味適正化、悪い意味では削減していく検討は避けて通れないと考えている。もちろんハードの部分、ハコモノだけではなくソフトの部分も今後も考えていかなければならないと認識している。古い施設は危険性がある、バリアフリー化されていないなど色々な課題があるので、同じところに同じものを作るという発想は持っていない。一方で、ソフトの事業を皆様方が今後も続けていくときにどういう形が良いのか、距離があって無理なのかといったことは引き続きの検討になるので、今の段階ではそれらも含めて皆様から意見を伺おうという段階である。様々なご意見を提起いただいて非常にありがたいが、これで終わりではなく、今回お示ししているものが絶対に決定というわけではない。もちろん市として今回の案に責任は持っている。これで説明会は終わりかと心配されているが、あと2回の説明会と5月10日までの意見募集も行う。それ以外にもパブリック・コメントで全市民を対象として意見募集を行うので、こうした取組を通じて様々な意見をいただいて、ハコモノとしてどうなのか、ソフトの面でどうなのか総合的に判断していきたいと考えている。

- ・(栗原五丁目) 市長は常々、『「住んでよかった」「ずっと住み続けたい」と思っただけのまちづくり』を就任以来ずっと私たちに伝え続けている。私も長いこと市には貢献したと思っているが、地域が元気でないと新座市は元気にならないと感じている。地域を引っ張っているのはやはり町内会ではないかと思う。

今の市長も、前の市長も、地域をいきいきとするために集会所を作るので皆さん大いに活用してくださいと述べていた。

栗原第一集会所は建設から50年近く経過し、老朽化している。数年前から私はエアコンの設置を要望していた。あまりの老朽化でエアコンを壁に付けられない状況だったがそれでも工夫して設置していただけた。エアコン設置についてのやりとりの中で、いずれは廃止にするという話を聞いた。建てませんとはっきり言っていた。

素案は多分70%~80%は決定だろうと思う。元気が出るまち、今後も住み続けたいまちを作るのであればもっと市民の意見を聞いていただきたい。全部を否定するわけではない。色々な事情でそうせざるを得ない場合もあるかと思うが、私たちが元気に活動することによって新座市も元気になるんだということを胸においていただきたい。

- ・(栗原一丁目) 新座市の第五次総合計画というものがある。基本構想・前期基本計画の109ページではコミュニティの拠点整備ということを掲げている。また、町内会の基本方針について記している。KPI 重要業績評価指標では町内会の加入率56.7%を60%にすると記している。

ハコモノとお金で議論が進んでいるが、そこに人の顔が見えない。住民

の顔が見えない。姿が見えない。これが第一の問題である。二番目に、資料の最後にもあるように、計画策定期間を9月としておしまいが切られている。「市民の声はお聞きしました、拝聴しました」、これで進んだら駄目である。市民の声を徹底して聞き、アンケートもこんな抽出ではなく、^{しっかい}悉皆調査（注：対象となるものを全て調べる調査のこと。全数調査ともいう。）をやってほしい。

それと、9月で計画策定するのではなく、もっと時間をかけて皆に問うことが必要。1970年に市ができてから今年は56年目である。市の行政のほとんどがこの示された施設で実践されているのにも関わらず、きちんと時間を取って市民の声を聞いて議論して組み立てていくという努力や誠実さが無い。

実態調査をしっかりと行い、計画策定期間をもっと先に持って行くことを提案したい。その理由の一つは、例えば集会所について、栗原第一集会所については繰り返し順番待ちだという話があった。それは市長が、そもそも市長がここに来てくれればいいが居ないこと自体が問題だが、市長が順番だと言っていたことも根拠が無くはない。新座市公共施設等総合管理計画の29ページには、耐用年数を原則80年とすると明記してある。策定期間は3年前である。これは朝令暮改というのではないか。こういう点をきちんと踏まえて説明がされていない。計画になっていない。素案になっていない。

もう一つだけ申し上げる。素案の29ページに配置計画の基本方針という項目がある。ここに3つの項目がある。計画の対象、計画期間、計画の位置付け。このなかに何が書いてあるかというと、「国のインフラ長寿化基本計画を踏まえ…」と書かれている。この国の計画とはいったいどういうものなのか。これがどれだけ審議会のなかで議論されたのか。その内容も説明されないし素案の中に盛り込まれていない。こんなことが山ほどある。だからこの素案というのはあまりにもずさんである。

もっと根本から練り直す議論を市でもやってほしい。我々も町内会や色々なところで声を上げる必要がある。

栗原一丁目町内会はこの前の総会でこの問題について大問題だから相談検討していくと年間活動方針を決めた。そういうことも考慮し、是非考え直してほしい。

→ いくつか誤解もあるようなので、その辺りは改めて個別にでも構わないので説明させていただければと思う。

市長はなぜ来ないのかというご意見だが、先程担当からも説明したが、市長からは皆さんにしっかりと丁寧に説明をしてよく意見を伺ってくるようにと指示を受けている。

- ・それが仕事じゃないのか。
- 市長は大変忙しいので中々体が空かない。

最終的な段階であればそれも分かるが、先程も申し上げたが計画自体は流動的なものであり、細かい議論もあるので担当からしっかりと説明させていただきたい。あと2回あり、アンケートも実施する。皆さんからの意見に応じて説明会を追加でやるとかパブリック・コメントの際にはもっと分かりやすい資料にするとといったように、色々工夫していきたい。

- ・（野寺四丁目） 二つほどある。一つは計画案がお年寄りや子どもにとって

プラスになるのかということに不安に思っている。地域の方からも様々なご意見が提起されているが、この計画案には色々な面で大きな問題があると感じている。

民主主義のルールで、市が考えている再配置計画について周知し、期日を設けずに徹底して意見を聞いてもらいたいということである。

それをなぜ言うかというと、私は27m道路が新しくできるということで色々運動をしたわけで、結果的には市長にも裏切られ県にも裏切られてそのまま執行される状況にある。

二つ目は、市民に施設が老朽化するから、子どもは少なくなるからこれを何とかしてくださいよという提案じゃないのか。新座市は財政的にどうなのか。税の使い方について根本的に考えていただきたい。

→(司会) それでは先程もあったようにアンケート用紙は入口のアンケートボックスに入れていただき、今日書けない方は栗原公民館にご協力いただき、アンケートボックスを分かりやすい位置にしばらく設置するよう依頼している。

今日の説明会の内容については少し時間をいただくが、資料と会議録をホームページに掲載するので出席できなかった人にもご確認いただけるようにする。

5 閉会

午後5時15分閉会